

A Graphical Tanka Magazine

THEME

はつなつ

逢

雑食

紗都子

嵯野みどりは

空音


Tetsu

都季

野比益多

水川 史生

ユキノ進



うた
たら
ら 
ば

0円
TAKE FREE

2011.07 vol.03



THEME

はつなつ

短歌はもっと、自由になれる。

ユキノ進	・・・ 03
水川 史生	・・・ 05
雑食	・・・ 07
空音	・・・ 09
Tetsu	・・・ 11
嵯野みどりは	・・・ 13
野比益多	・・・ 15
紗都子	・・・ 17
都季	・・・ 19
逢	・・・ 21
佳作集	・・・ 23
編集後記	・・・ 26



根拠のない予感を
疑うことなく信じきって
あなたは子犬みたいに笑う

明けていく空の
さらにその向こう側の
朝は優しい色なんだって

明けていく空の
さらにその向こう側の
恋は二人を包むんだって

明け方に夏の星座が過ぎる音聞き逃さぬよう髪を切ったの
(ユキノ進)

私にはないものを
あなたはたしかに持っていて
だから
恋をしたのかもしれませんが

言葉に詰まったのも
涙を流したのも
なにもかも
あなたのせいに見えたかった

長袖を脱いだあなたの細腕が窓辺に晒され恋した教室
(永川 史生)

扉を開くとき
笑顔がいちばん似合うから
ねえ 笑おうよ
笑って扉を開いてみてよ

ペディキュアの爪先にあうサンダルを鳴らしてきみに愛されにゆく

(雑食)

いくつかの秘密を隠し白くあるレース日傘の強かなこと

(空音)

冗談めかして言ったけど
欲しかったのは
あなたでした

空のいたるところに
夏が生まれてしまうから
海のいたるところに
夏が生まれてしまうから

本心を隠した
心が小さく震えてました


真っ青な油が分離したままで波にもなれない夏の置き物
(Tetsu)

透明な光の
向こう側の影に
邪魔されたって泣いている

小さな恋がありました

揺れることも
きらめくこともなく

いつか、
それを考えることが
こんなにも苦しいなんて



雨が降ったなら
伝えようとした想いが
わずかに
わずかに
熱をうばって消えてゆく

あなたは残酷で
そして
優しい嘘つきだ

最後まで笑顔のまま
きれいなさよならを欲しがって

紫陽花の花言葉だけメールした苦笑いなどもう見たくない
(嵯野みどりは)



スーパーの棚で震える白桃に触れるときこそ無造作であれ
(野比益多)

愛されたくて
愛されたくて
わたしは弱くなりました

あなたとの距離をはかって
わたしへの愛をはかって

ただ
壊されたかったのかも
しれません



はつなつの髪をほどけばパラドクス会える会えない来ないでよ来て

(紗都子)

愛も悲しみも
夢も未来も
光に溶けていきました

答えが欲しい
そう言えばあなたは
どんな顔をしたのでしょうか



手のひらの温度を
忘れることのないように
わたしは今日もここにいます

最高気温は36℃
あれはそう
体温に似た優しさでした

バイバイ、と君が最後に手を振った道に今年も揺れる陽炎
(都季)

ぼくたちがぼくたちとしてあるためのポカリスエットが夏のはじまり
(逢)



それぞれの嘘を飲みこんで
走りはじめたぼくたちは

揺れて揺れて揺れて
揺れて揺れて揺れて
最後にふたりで笑いましょう

一瞬で
永遠の

手をつないだらもう夏でした



九月には種子をたくさん集めるの朝顔棚組む君の白い手（ユキノ進）

真新しいサンダルに足通すとき弱いかかるとに吹く南風（嵯野みどり）は

全身で息をしている 気づいたらこの身体にもみどりが宿る（藍原晶）

藤棚の下で僕らはうっかりと青い果物みたいに並ぶ（野比益多）

七月のままのあなたが見上げてる短冊のない笹のざわめき（むしたけ）

山法師花の名前を本当は昨日覚えてその下に待つ（いらくさ）

きみどりの雨が降ります きみどりの街になります 葉桜の刻（龍翔）

みずいろのおいを纏う濡れ髪にきみが少女でないことを知る（氷吹けい）

夕立を待つトンネルに落ちていたビニール本のページ刺がれず（オキラクナクマ）

かけひきのない恋などしてみたい君を選んでしまった夏（こゆり）

笹の葉にじかに願いを書いちゃってあの日ぼくらは最強だった（むしたけ）

恋人になりそうなひとと明け方のコンビニにいる「夏のおいだ！」（とびやま）

あなたから借りたシャツにはあの夏の西瓜の汁がしみていました（雑食）

笑うたび水滴が跳ぶ新しい水着で君は子どもみたいだ（瀬波麻人）

初めての海は遠くて退屈だ甘夏の房むいてあげよう（さくらこ）

日曜の朝のソナチネ眠たくて幼き指に光がとまる（くらむぼん）

ブランコをぐらんと漕いで少年は夏空の中にひとりさまよう（纏亭写楽）

佳作集



まっすぐに想われたいよブルーブルー芝生は空を目指して伸びる

(田中ましろ)



編集後記

夏です。とても暑い夏です。心躍る初夏をすぎて、もう。セミが元気になるほど人間は何もしたくなるような、そんな夏に。うたらぼ vol.03【はつなつ】を手を取っていただきありがとうございます。ご投稿いただいた短歌は全部で160首あまり。みなさんのご協力により過去最高の投稿数となりました。目移りしながら選ばせていただいた短歌28首と10枚の写真。個人的には過去最高の出来だと思っています(笑)

実験的に短歌を改行せずに表示してみた今回の【はつなつ】。改行位置が作歌された方の想いと反する可能性があることなどを考慮した結果です。よりよい誌面を作るために、僕も少しずつ学んでいきたいと思っておりますので、ご意見などいただけましたら幸いです。次号がもっと素敵なものになりますように。引き続き、短歌のご投稿などなど、何卒よろしくお願いたします！

企画・構成・写真・誌面デザイン
田中ましろ



Project Uta-Lover

<http://www.utalover.com/>

短歌の募集は随時行っています。
お気軽に上記 URL よりご投稿ください。
投稿短歌より写真作品を制作し、
次号に掲載させていただきます。

うたらばvol.03【はつなつ】

<http://p.booklog.jp/book/38870>

企画・詩・紙面デザイン：田中ましろ@うたらば
プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/utalover/profile>

※本誌は電子書籍用に最適化された冊子ではありません。
正式PDF版は下記URLでご確認ください。
<http://www.utalover.com/pdf/utalover03.pdf>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/38870>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/38870>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）
運営会社：株式会社paperboy&co.